秦野高等学校　創立百周年記念式典あいさつ

日　時　令和８年 10 月 29 日（木）１３：００
場　所　クアーズテック秦野カルチャーホール

本日ここに、多数のご来賓の皆様、同窓会の皆様、そして本校の歴史を力強く引き継ぐ在校生が一堂に会し、神奈川県立秦野高等学校創立百周年記念式典を挙行できますことは、この上ない喜びであり、深い感謝の念に堪えません。ご多忙の折、ご列席を賜りました皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

百年の歩みを振り返れば、戦中の困難な時代、戦後の復興期、高度経済成長期、そして国際化・情報化が進む現代と、社会の大きな変化と常に共にありました。その時々の課題に応え、教育の形を変えながらも、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、社会に貢献する人材を送り出し続けてきたことは、いつの時代も変わらず本校が誇りとするところです。

卒業生は 29,000 名を超え、学問、文化、産業、スポーツなど多彩な分野で活躍し、地域社会でその力を発揮しています。こうした活躍は、在校生にとっても大きな励みとなり、本校の伝統と精神を継承する誇りを育んでいます。

現代は、ＡＩやグローバル化の進展、環境問題や自然災害など、将来を予測することが困難な時代と言われています。そのような社会においてこそ、自ら学び、考え、他者と協働して課題を解決する力が求められます。秦野高校の校訓である、勉強も部活動も学校行事もすべて本気の「文武両道」、高き目標を掲げて挑み、強く時代を生き抜く「質実剛健」、日常の何事にも手を抜くことなく取り組む「凡事徹底」は、今の秦高生にも伝統とともに受け継がれ、学校生活の指針となっています。

県教育委員会からは「ＳＴＥＡＭ教育研究推進校」としての指定を受け、授業改善に活かしています。ＩＣＴの積極的な活用によるＤＸリテラシーの育成や、オーストラリア姉妹校交流による国際理解教育、今後は教職に関する学びなども行い、学校のあらゆる教育活動を捉え、地域をリードする人材を育てています。

さて、生徒の皆さん、私はいつも秦高生は素晴らしいと思っています。真面目で、純粋で、一生懸命で、礼儀正しく、思いやりがあり、品位もあります。そんな秦高生が頑張っている姿を見るのが大好きです。頑張っている姿は、見ている人に感動を与えます。

毎日を懸命に駆け抜けている皆さんだとは思いますが、今日は少し立ち止まって、過去に思いを馳せ、未来に希望を抱く日として、心に刻んでみてはどうでしょう。

６月に行われた同窓会の総会で、16 期生とおっしゃる方とお話しする機会がありました。今年１年生の皆さんは 81 期生ですから、80 歳を超えておられます。

「自分は農家の出身だったから、大学に入るつもりはなかった、けれども、当時の担任の先生が熱心に大学進学を進めてくれて、親も説得してくれた、大学に進学して世界が広がった、秦野高校に入って本当によかった」と、目を細めながら話してくださいました。

その方は、秦高と担任への感謝の気持ちで話してくださったのですが、それは何よりご自身が充実した３年間を過ごされた証だと思いました。そういう卒業生が皆さんの先輩にはたくさんいらっしゃいます。

高校３年間は、長い人生の中ではほんのわずかな時間です。ですが、それはとても密度の濃い時間で、その後の人生を豊かにします。たかが３年間、されど３年間。何を感じ、何を考え、どんな時間を過ごすかは、皆さん一人ひとりが決めることです。卒業して何十年かたった時に、秦高に入ってよかったと心から思えるように、今を生きてほしいと願います。

本校は本日、次の 100 年に向けた「新たな創立」の一歩を踏み出します。これまで培ってきた伝統を重んじつつも、変化を恐れず、常に進化し続ける教育活動を展開していく所存です。地域に愛され、誇られる学び舎であり続けるため、教職員一丸となって全力を尽くしてまいります。

ご列席の皆様におかれましては、今後とも本校の発展に向け、変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日お集まりいただきました皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますと共に、本校の未来が更なる光に満ちたものとなることを祈念し、創立百周年の挨拶といたします。

令和８年 10 月 29 日
神奈川県立秦野高等学校
第 33 代校長　大江雅美

